女學雜誌

第二百八號目次

社説　先生論○女子と獨立○二種の青年を見る
論説　センチス、ミルラー夫人の改頁服（在米國費府ミス、エルキントン）
批評　廢娼○雜誌の時代、新聞の時代○讒訴輿論○國文國史○同志社の發起者、設立者、創立者
雜録　閨秀小説家啓○ブラウニングの逸事（雲の舍主人）○モロカイ島の新ダミエン（碓氷山人）○敬宇先生の詩○智力の遺傳○おかげ參り○和歌の浦波（地袋淸風）○きよめぬ庭
小説　野邊遊び
寄書　淫用物の賣買嚴禁すべし（大和郡之助）○蓄妾の弊○和歌十首
開書　ラーッ氏を送り、同夫人を慰さむ○東洋英和女學校の女生徒諸君に告ぐ○交詢
時事　皇后陛下養蚕家を見玉ふ○同志社新校長○時事翁の廢娼論○七十五日○眞の流行、假の流行○今后天下太平○通信○廢娼記事
女報　女子高等師範學校○跡見女學校卒業式○汲泉會○東京唱歌專門學校○國語講習會

The man that works at home helps society at large with some what more of certainty than he who devotes himself to charity.—Emerson.

本號には癩病島に入る女丈夫の肖像米國改頁衣服の圖説、先生論、掲載す

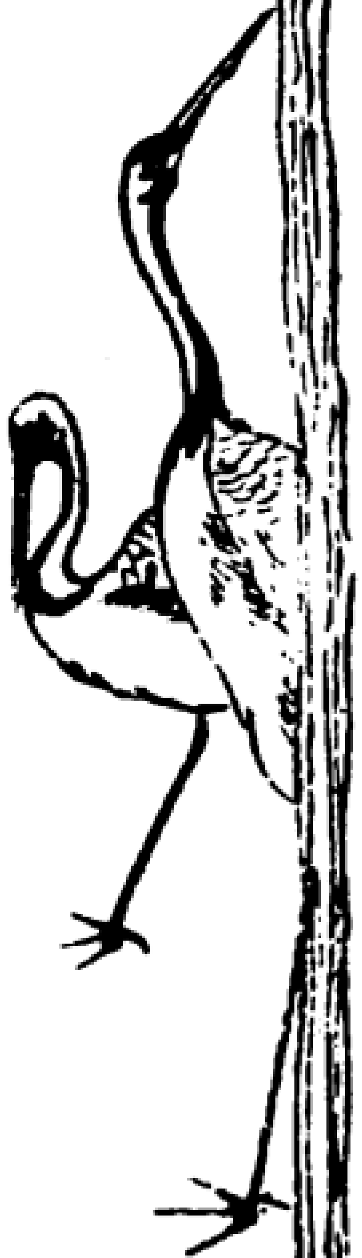
前號には敬宇中村先生を訪ふの記を載す

博覽會開設中無代價て書籍呈上の方法

本年大博覽會開設中に女學雜誌及通信女學を新規注文せらるゝ方には左の書籍を呈すべし

一年分前金の方へは　婚姻論一册

半年分には　猶さ鼠叉は徒然草講義一册



四月二十日發兌

第二百八號

一册定價六錢

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 208. 12TH. APRIL, 1890.

第二百七號目次

EDITORIAL:—The Teacher. Women and Independence. Two Kinds of Young Men.

LEADING ARTICLES:—A New Costume proposed by an American Lady. (*concluded*) by Miss Elkinton.

CRITICAL NOTES:—

MISCELLANEOUS:— Answers received from Lady Novelists (*continued*). Anecdotes about Robert Browning. Miss A. C. Fowler, a Successor to Father Damien (*concluded*). A Poem by Prof. Nakamura. Intellectual Inheritance. Pilgrimages. Corrected Poems. Facetic.

NOVEL.

CONTRIBUTED ARTICLES.

OPEN LETTERS.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

社說　明治女學校生徒に告ぐ、目下の女子教育法

論說　ゼンチス、ミルラー夫人の改良服（新戸邊稲造）○女子盡ぞ和歌を學ばざる（其二）（雲峰子）

批評　存娼實際論○經濟及統計○體育及び食物改良○善にも弱く惡にも弱し○農哲林遠里氏

雜錄　閨秀小說家答（若松しづ子）○モロカイ島の新ダミエン○政治家は君子ならざる可らず○獨身者の弊○きよめぬ庭（洒落齋主人）

寄書　五長（叢菊野史）○河野梓子傳○漫言一則（漁山人）

開書　東の都 淺草は しのほさりに住ませ 玉ふ章子の君に（郁の山人）○諸孃の履歷を問はん（尙白生）○交詢

時事　女子高等師範學校長中村敬宇先生を訪ふ○師範學校女子部內の基督信徒○慈善家モリス氏夫婦○怪文字○新聞紙の不德○咄々怪事○日本の婚姻に對する英國法庭の判決○離婚訴訟

女報　女子師範學校長○神田高等女學校○東京禁酒會○成立學舍女子部○跡見女學校○高等女學校○其他數件

WOMEN IN JAPAN.

(1) *The Editor lately called on Prof. Nakamura who was President of the female department of the Normal School from '75 (the year of its establishment) to '80, and who has just been re-elected President of the same. The editor after expressing his satisfaction that so worthy a champion has been gained to the cause of woman's education, led him to speak on the subject of the moral culture of schools. The Professor declared in very strong terms, his belief that that culture is the strongest which recognised a superhuman or Heavenly Power. The editor acquiesced, and said how weak and inefficient the philosophies were as means of moral culture, and compared Buddhism and Confucianism with Christianity. The Professor said that he was not familiar with Buddhism, but that he knew that none of the three religions is to be despised and rather agreed with Prof. Kato when he proposed that all the so-called religions should be equally patronized in schools. The editor said it would be better that the schools do not patronize any doctrine, and leave the matter of worship entirely to the judgment of the students. It may be added that Prof. Nakamura is one of the few Professors in the University who has professed Christianity.*

(2) *Of the 10 districts in which licensed prostitution held sway in Gumma Prefecture, 3 are to be done away with by October.*

(3) *There are now 24 associations against licensed prostitution in the whole Empire.*

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

Sister Rose Gertrude.

癩病島に入る女傑の肖像

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第二百八號
明治二十三年四月十二日發兌

社説

先生論

エメルソン歌ひて云く、遠寺の鐘は勇將をして轡を制めしめ、田圃の貧農夫は詩人の吟囊を富ます、如此く事物相關す、一個村翁の經歴も遂に其村の道德經とならざるヿあらしと。夫れ、吾人が一生は只だ吾人のみの一生にあらず、引いて當世の民風に關はり、更らに後代の盛衰に影響す、吾人は吾人の爲めに生くるのみにあらず、更に一國后世の爲めに生くるなり、其生命は一人の生命にあらず、更らに大ひある生命の一血脈たる也。吾人が日常爲す所ろの起居坐臥は、造次顛沛の間だと云へども他にさしひびくヿ少しとせず。

故に人は、先づ其一身を修めて己を正ふするヿを要す、己れの未だ正しからざるは即はち一國の未だ正しからざるの證あり。然れども既に己を正しふするのみを以て之を足れりとすべからず、一國の未だ正しからざるは即はち己の未だ全く正しからざるの證なり。一國實に正しくんば國民皆な必ずや正し、國民皆正しくば一國必らずや正し。彼れ淸念淨澄して獨り天に嘯ふき、己れ獨り淸めり天下皆濁れりと云は不可なり、天下皆濁るとき己れ何んすれぞ獨り淸むヿあらん、其の力よく天下を淸ますヿに少補なくんば之れ彼の德の未だ達せざるヿを證するなり。ギゾー曰く、人は眞理を悟ると共に之を發表せんヿを欲す、一新理を考ふれば直ちに之を文章に草せんヿを欲するあり、一事業を考ふれば直ちに之を實地に施さんヿを欲する也、輿論に反するの一意見を得る時は直ちに之を叫ばんヿを欲する也、彼れ必らずや之を外に發表す、此に於てか一個人の進歩は必らず一國進歩の基ひとある、古今文明の跡を顧みるに常に其相關を認たむと。之を以て人己れを直しとし世を曲れりとせば則はち世を矯正せずんばある可らず、彼の獨り愼しみ固く閉ぢて隱に君子を自許して他の爲に盡さゝる者は未だ眞の生ける道德家にあらす。

故に人は一面に於ては常に學生たり以て日夜道を學ぶべし、他の一面に於ては常に先生たり以て四方に其感化を施すの覺悟あるべし。我れ以外に善美あれば悉とく習ふて之を學ぶ、而して我れ亦た多少の善美を得れば發して之を他に及ぼすべし、我を進むるは我が一己の生命を善する也、我以外の者を進

むるは我一已が隷屬する更に大なるの生命を善くする也、世正しければ我亦正し、我正しければ世も亦正し。

先生とは先んずるの學生なり、彼れ一歩早く既に學び得たるの學德あり、身すでに之を修め得て而して他に之を教ゆ、彼れ本來生れながらにして知るにあらず但だ先きに之を覺るが故に則ち后生に教ゆるのみ、己れ先覺の故を以て后覺を悟とす、己れ道を修めて道を得終日教へて倦まずと云ふもの即はち此れ也、未だ先づ覺らずして安んぞ教ゆるを得ん、未だ先づ行はずして安んぞ能く行はしむるを得ん、先生とは先づ之を覺とり、先づ之を行ひ、其感化を后生に及ぼして師弟相列するに至り以て早く全世を進ましめんヿを欲する者也。

凡そ道德の事は啻に之を知り之を言ふヿを以て善しとせず、必らずや之を行はずんばある可らず、善は善なりと言ふヿは白は白なりと言ふに同じ、白は只だ白なりと云ふヿの敢て一事業を新設し得ざるが如く、善は只だ善なりと教ゆる時は抑そも何の効能もあるヿなし。且や善の理を說き其道を講ずるは事すでに抽象的に入れり、凡そ抽象的の格言を教ゆるは先づ經驗を經たるの后に於て施すべく、若くして初めて其効あるが故に、道德を教ゆるものは、先づ之を實行に於て教ゆべし、初より之を言語に於てし格言に於てする者は既に教育の順序を誤れるもの也。故に先生の世を教ゆるや必らず實行なるべし。

己れ先づ道を修め德自づから發して四方を化するに至り初めて先生たるヿを得べし、彼の徒らに倫理を講ずるもゝの如きは、一の講釋師たるのみ之を先生とするヿを得ず、揚子法言に曰く、學を務んよりは務て師を求むるに如かず師は人の摸範也、桓譚新論に曰く、三歲學ばんよりは如かず三歲師を擇ばんにはと、蓋し實行の師を云ふ也。古今倫理に變はるヿなし、然れども孔子出でずんば道德實に行はるゝヿなし、古今神理に變はるヿなし、然れどもクリスト出でずんば信仰實に確かなるを得ず、凡そ道德上の事は口を要せずして一身を要す、議論を要せずしてパーソン（人性）を要す。

今の世人、身半ばは學生にして半ばは先生たるの理を知るか、たとひ之を知るも果して能く先生たらんとするの覺悟ありや、況んや一世の師として俗界に卓出するものに至りては寥々として聞えず、彼の如此くあらんヿを勉むるものすら尙ほ極めて稀れ也、吾人はシバの女王の如くソロモンを求むるもの也、天下それ何の處ろにか其人ある。　二程十七八、すでに慨然として聖人たらんヿを決すと今の人それ聖人たらんヿを勉むるもの果して有りや、噫何んぞ寂莫たる。

女子獨立學校開校式祝辭

女子と獨立

左は過る五日府下角筈村に於ける女子獨立學校開校の式に臨み余が祝辭として演述したるものゝ大意なり。中に讀者が一覽を仰ぎたきの節あるを以て、別に題を附し社說の一とは爲しぬ。

女子獨立學校開校の式に臨み、感歎一と方ならず、敢て一言を呈す。余は女學校新たに設けらたりと聞くときは、其如何ある種類にてあるを問はず甚たく祝するものあり、左れど此學校の新設を祝するに於ては更に一種の別情あり、今ま發起人諸氏の精神を承はり、又學生二三氏の演說を聞き、いよ〳〵感歎の思ひ切なるの心地す。

今や女學校到る處ろに在り、然れども特に獨立の二字を冠するの女學校果して他に之れ有りや、余未だ之を聞かず、凡そ尤も進步したる女學校は取分け獨立の一事に掛念して其敎育を施すなり、然れども特に獨立の二字を學校生存の首石となすもの果して他に之れ有りや、余未だ之を聞かず、今日此の女子獨立學校に於て初めて之を見る也。

フランセス、ウィラード曰く、十九世紀に大發明多かりき、左れど女子が其の「己」を發見し得たるとは即はち發明中の最大なるものなりと。蓋し、人は先づ其「己」を知るとを要す、彼れ堅乎として地球上に直立せり、其の如く亦た「己」なるものゝ上に確立せざる可らず、人もし其己れなるものを尊重せず、個々特立するの氣象に富むとなくんば、滔々漫々幾億の民ありと云へども、世は擧て木石の亂散するに異ならず、絕へて人あるを見ざる也。人先づ「己」の上に立ちて初めて獨立し、獨立して初めて強く、強くして初めて一己一國の益を爲すなり。フレーベルの敎育は何の故に尊ときか、彼は學ぶものをして先づ「己」なるものを見出さしめ、其の己によりて觀察し、開發するとを得て初めて眞誠の敎育とはある也。此を以て、女子を敎育するものは先づ女子をして其の「己」を發見せしめ、此の己によりて獨立するの見識を確かめしめずんばある可らず。

然るに世人往々奇怪の說を懷き、女子をして獨立せしむるときは其の優美を失ふと思ふものあり、蓋し此の輩らは獨立と云ふとを嚴しきとのやうに誤解し、女子にして若し獨立の氣象に富ときは、極めて疎暴となりて、溫雅の質を欠き、遂には他に婚するの心得をも失ふとあらんと憂るあり、思らく、優美たらんには人に委賴するの質ある可らず、たとへば軟ら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

かき木の風間に獨立しがたく必らずや之を維持するの支木を要するが如く、他に頼より漸やく立つの狀ありてこそ初めて優しけれと云ふ、此を以て深窓に育つ貴孃が万事を他に委頼するの趣きあれば則はち之を優美なりと稱し、妻が弱らしくして万事夫に委頼するの情あれば、則はち之を可愛らしと稱し、遂には其足を縮め獨り歩行しがたきの不具となして初めて之を温雅なりとするに至る、そも〳〵如此きことを以て優美なりとし、此の種の優美を以て女子に求めんとするは、宛がら女性を人形視せんとするに似たり、又劣等視せんとするに似たり、又憐愍視せんことを欲するに似たり。

如此き人の誤てることは、之を其輩ら自身が平素言ふ所ろの言葉に對照するときは忽まちに明白となるべし、彼の人々は大率ね言ふにあらずや、妻は夫を助くべきもの也、女子は男子の助けとなるべきもの也と、然り女子は助け手なり妻は夫を内助すべきものならん、果して然らば此の婦人等は皆な獨立の氣象に富まずんばある可らざるの筈なり。凡そ人に助けせんとするものは、先づ自ら助くるの人ならざる可らず、たとへば人に手を假して之を介けんとするものは先づ自から堅立することを要するが如し、苟くも然らずして己れ未だ立たずして人を介けんとするは、之れ助くるに非ずして寄り掛るもの也、即はち彼の益となるに非ずして彼の厄介となるもの也、左ればば婦人をして男子の助けたらしめんと欲するか、然らば先づ婦人をして獨立することを知らしむべし。抑そも獨立とは學成りて婚せず生涯夫なきことを稱するの謂に非ず、其心の獨立にてあること也、其覺悟の獨立にてあること也、其活計の獨立にてあること也、それ如此く獨立にして初て男子の厄介とならず、而して能く之が助けを爲すことを得る也。

日本國に四千万の民ありとせよ、中二千万を男とし、二千万を女とせよ、此女子若し男子を助くれば日本は實に四千万の良民あるなり、然れども女子幸はひにして所謂る優美なるものにてあり絶へて獨立するの精神を存せず事々に男子に委頼するとせんか、彼二千万の男子は二千万の女子を負ふなり、即はち男子は銘々に厄介物を擔へる也、此時に當つては男子は皆な女子の柱、寄掛り處、棒杭となれり、二千万の男子、二千万の女子の爲に働らくのみ、此に至れば日本には殆んど餘力あるの一個人もなき也。それ日本を四千万の民ある富國たらしめんか、若くは一個人もなきの沙漠たらしめんか、そは一に女子をして獨立ならしむると否とに關す。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女子の獨立は如此くに大切なり、彼は獨立すとも決して優美を失ふとなし、啻に失はざるのみならず、斯くして初めて眞の良妻となるなり。

故に女子をして其「己」なるものを發見せしめ、確かに其上に堅立して毅然獨立の氣象あらしめんとれ、方今の女子敎育に最大必要の事なり、而して如此き敎育を施すには、此の女子獨立學校の敎育法を以て第一となす。

此校の主旨は、學資なきものに、自ら働きて其得る所ろの金を以て勉學せしむるにありと、即ハち半日女藝を行ひ、半日書を讀むの工夫あり、其の頭は手の働らく所ろによりて學び、其の縫ふ所ろ編む所ろは腦に知識を納るの元料にして、之れが爲めに貴重の織物日ならずして成る。手よりも錦を出し、心にも錦を織る、美なると何物に比ふべくもあらず。夫れ學問は讀書にして讀書は文字を多く覺ゆるにあらんか、果して然らば半日職業に費やすの時間は實に惜しむべきのものなるべし、然れども學問果して然るものにあらず、其精神にあり其覺悟にあり即ハち人間を造り出すにありとせんか、此校の敎育法の如きは實に美の尤も美なるもの也。ヒウ、ミルレル曰く、勤勉は敎師中の最良敎師なり、自活は學校中の最良學校なり、之によりて獨立、忍耐、遜節を生ずと、此校の敎育法は即ハちミルレルが敬服すべき最良の敎育法なり。

今日の敎育大率ね浮華に流るれども、女子敎育に至つては其弊特に甚はだしきを覺ゆるなり、中に於て此校の如き主旨を以て起つものあり、若し此主旨貫徹し、敎師諸君も生徒諸氏も一意合體して必らず此の精神を實行擴張せらるゝに於ては、啻に此校自己の幸福限りなきのみに非ず、女學全躰に對するの効益莫大ならんとす。語に云く、天は自から助くるものを助くと、諸君乞ふ自助の精神に於て一毫も退くとある勿れ、いよ〳〵奮勵長進せよ。開校の式に際し、此校の長しなへに健全ならんとを切に祈る。

二種の青年を見る

男子志を立てゝ鄕關を出づ、學若し成らずんば死すとも歸らずと、高吟して笈を負ふて出京す其狀何如にも雄々しきあり。然るに出京后學なか〳〵に進まず、反つて樣々の惡經驗に長じ、或時は亦放吟するなり、醉ては枕らす美人の膝、醒めては握ぎる天下の權と。左れど天下の權かろ〴〵しく得て握る可らず、彼は演說會に傍聽してはノウ〳〵と絕叫し、

新聞紙を讀みては徒らに慷慨し、戯場に出でゝは大率ね不平を鳴らし、學資を徒費し身に惡衣を着て特更らに意張り、條約改正に走りまわり、撰擧競爭に周旋し、大演習に英雄めかし、博覽會に富國策を講ず、而してその第四リードルを通讀するすら、いとく〜覺束なし。

亦た一青年あり、其鄕を出るや涙を拂つて父母に告別す、歩して村を離るゝとき數度たび顧みて立つ、其京に出るや謙にして甚はだ謹しみ、學に勵むと兀々敢て餘念あるなし、世上に喧しましき議論あれども彼は只だ書を讀みたり、敎師に欠所多けれども忍びて之に就學したり、やゝ獨讀するの力を得る比ろ、漸やく出で歩るきて世上の大勢を知り、亦た新聞紙を見て幾度びか痛歎す、則はち學窓に暇まあるとき或は友人に勸告して善に導びき、又或る時は矯風慈善の會に列して應分の助力を爲す、彼れ敢てラツパを吹くとなし、極めて靜かなり、譬ふるに淸澄の水沈々として叢葉の下に流るゝが如し、時に光り、時に溢る、然れども大河に入るに至る迄は未だ滔々の音を發せざる也。

甲の少年或夜某牛肉店に鯨飲し、肉情躍り動きて禁じがたく、快哉と叫びつゝ車を走らせて、宜しからぬ所ろに遊ぶ、朝目さめて忙然たり、すご〜として歩み、青白き顔、腹を空ふして歸る、時尚ほ寒く、路上往來する人なし、只見る大門の傍らに一青年立り、彼を見るや則はち袖を扣へて一片紙を與へたり。

彼れ則ちゆく〜之を讀めば、實に左の如き文字ありき、

一青年悔改の獨語

むかし放蕩の若者ありけり、人の目を竊みて昨夜善からぬ所に遊び今朝まだきに起出でゝ急ぎ家に歸る門を出れば天さむく地冷て往通ふ人未だ多からず、茫然迷の尚ほ覺めざる心地して半ばは過る夜の事を夢みつゝ歩めば、悲雁數行空を渡り長鳴して人を驚ろかす、少年忽焉として覺とり自ら省りみて云ひけらく、

嗚呼余れは復たび此處にありしか、前日嘗つて盟ひて復た茲に來らじと覺悟しつるに何如なる惡魔ぞ昨夜余に酒を飲ませふら〜として此の魔界に來らせ一夜余を狐狸の裏に投じて悉とく迷わしめ金を失なひ精神を衰ろへしめて則はち斯く突き放すか、余に父母あり父は余に產を讓らんとて微塵

の奢を爲さず夜を日に繼ぎて勉勵し玉ひ母は余が出世を樂しみにして只管ら立身の知らせを待ち居玉ふに余は一念此に感ぜず何故に斯くうか〳〵とするや、志を立てゝ國を出しときは頗ぶる英氣ありしが都門の水余を醉はすか如何にして知らぬ間に斯くは心得違ひしたる、彼の余に媚ぶるものは余が金に媚ぶるなり余が金に媚ぶるは父よりの送り物に媚ぶるなり父は余をして立身せしめんとて金を賜ふに其金は翻つて忌はしきものゝ手に落ちたり是れ父の志を轉じて妓樓の溝に投じたるなり、母は余を人中に見へ善からしめんとて衣服を仕立て玉へり之を着て遊女に賞められよとは念じ玉はざりし況して母の御手に成れる辛苦の手織は賣つて古着屋の手に渡り淺墓なる此の絹物を求めたるは何の心ぞ、遊女が余を遇なすは黃金をもてなすものにて彼は黃金の高に隨ひて其情を切賣にするなり余れ其切賣を受けて自ら誇り一身を擧て死せる黃金となしぬ、嗚呼遊女も人なり彼れ何を以て此の余れを愛するぞ余は父母に不孝なり學問に不勉强なり仕事に不熱心なり友人に不義理あり遊女果して人ならば余を何故に愛するか彼もし心得あらば此の不心得ものを愛するの理なし若し此の不心得者を愛せば彼亦た大ひなる不心得ものなり不心得者の愛を得て盲者めしひに伴はるゝとも何の喜びかある、特に遊女は人の墮落したるものにして高き潔ぎよきの德を知るものに非ず余れ万一之に愛せらるゝとも抑も後に於て之を如何にすべきぞ余は如此きものを余が半身として妻と爲すとを得ず亦た余は一夫一婦の德を破りて之を妾とすることを得ず然らば之を愛するも之に愛せらるゝも抑も后に於て之を何如にせんと欲する、嘗て聞く夫婦は一躰にして情交上なきの信友なりと、若し二人相敬愛し全心を擧げて互ひに委賴し深く契り固く貞節を交へ和樂を相分つとあらば人世の幸けだし何者にも過ぐべし、余れ今ま淸き婦人に一人の友なくして汚れたる毒婦に身靈を委ねんとし余より身を落して殆んど魔界に陷らんとせり、彼の遊女亦た人なり嘗ては父母兄弟ありて一家內の愛

兒愛妹にてありしならん今ま墮落して牛馬に伍格し日夜男子の玩弄物となりて漸く金錢を得るは何等の不愍ぞ余は即はち之に乘じて之を弄そび金を投じて之を器械の如くし人の子を用ひて牛馬たらしめたり、彼の遊女の中或は孝行義理の爲に身を賣しものもあらん左れど余の如きもの之を要するとなければ彼等も玆に身を賣るに至らざりけん大和十津川の民は水害にあひて家屋田地を悉とく失ひしが爲に其妻孃を娼妓にしたりとは聞かず皆な一家睦まじく手を引て北海道に移住したり、嗚呼彼の遊女となるものも若し初より娼妓の業の極めて惡むべきとを知らば假令ひ何如に貧するとも他に其業を求めしならん然るを彼等が不幸にして此の業躰に沈みたるは先づ世に余等の如き需要者のあればなり、余は世上の義人の如くに廢娼論をも唱えず反つていよ〳〵娼妓を殖すとを爲す、嗚呼過る日の廢娼論の演說を聞しときは余乍ら感奮したりき實に國に娼妓あるは一國の大恥辱にて日本に此の醜業を堂々公許し置くは日本全國に姦淫の罪を公許するとを示すなり西洋人往々我國を呼びて淫亂國と云へり我國をして淫亂國たらしむるも亦た余が輩らの罪なり、世には女子を教育して女の人となりを立派にせんと盡力するものもあり亦た廢娼論を唱へて娼妓を廢し之に職業を得させ社會の風儀を善くせんと盡力するものもあるなり、然るに余は女子をしていよ〳〵墮落せしめ益々娼妓となるものを多くす余れ不肖と云へども何故に此の惡しきとを悟り得ざりし乎、嗚呼〳〵前非は追ひがたしたゞ之より改めん今日より斷然改心し身をつゝしみて善業に力を盡さん。

余れ此の人の悔ひ改めを聞きて甚たく感激す、何人か過まちなからんたゞ悔ひて改むると改めざるとのみ、世上同胞の兄弟願はくは靜思反省あれ。

「娼妓に合ふ者は彼と一の躰となるを知らざるか蓋は二人のもの一躰となるべしと云ひ給ひたれば也」。

吾人は甲の青年の以后果して改悔せしや否やを知らず、然れども之に彼の勸告の文を與へたるものは實に乙の青年にてあ

るゝを知る也、彼れ早朝起きて廓の門外に立ち、歸るものに此文を與ふ、而して此文は彼が同志者と共に學資の幾分を殺ぎ、互ひに儉して之が印刷の入目に當て、以て、墜落者を救はんとするの者なり、誠忠人をして泣かしむるに足る。

嗚呼青年は一國の元氣なり、國に甲の青年あると幸はひなりや、抑そも亦た乙の青年あるとを幸はひとする乎、先輩諸君深く慮ばかる所ろなかる可らず。

論説

ゼン子ス、ミルラー夫人改良服（其二）

在米國費府　ミス、エルキントン

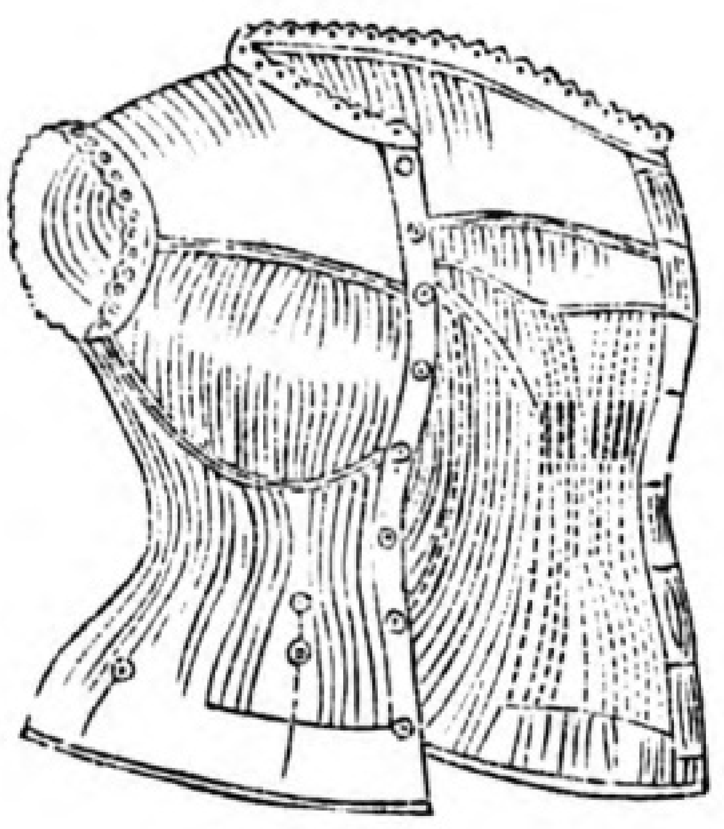
妾は常に女學雜誌に接し其横文の目錄中に時々衣服改良の事或は單純なる服裝の模形の事あるを見て喜びに堪ざるあり西洋諸國の婦人服裝中今日に改良を要するもの蓋し少からず今日世人の着用する所のものを悉く用ひるとは決して肉軆に適するものに非ず今若之を改良して肉軆に適當するものとなさんには(第一)其製作法及び物品を改良し(第二)其重量を減じて充分の温度を保つものとなさゝる可からず(第三)身軆の全部をして其運動に自由ならしめざるべからず今日は是無事の日に非ず袖手閑坐すべき時に非ず爲すべき事多く學ぶべき事繁き十九世紀なり我等此時代に生を享くるからには一は以て自ら治め一は他人を助けて以て充分の運動を爲さゝる可からず故に我等の時と健康は眞に貴重なるものにして我等をして働きを爲さしむるものなり此時に當り我等の軆力を消疲し四肢五軆の運用を妨碍するが如き服裝を用ひざる可からずとは實に嘆ずべきの至と云ふべし女服改良の今日に急務なる知るべきのみ然れば米國に於て敎育ある婦女子は一般に女服改良を望まざるはなし而して最も此改良に意を用ゆるはゼン子ス、ミルラー夫人なり彼夫人は未だ嘗て胸衣の如き不健康のものを着用せし事なし然るに胸衣を用ひざると同時にボタンを以てスコルトを上衣に繫ぐか若くは其重量を肩に持たせ身軆の全部にて其重量を支ふるが如くなさゝりしを以て其腰部及び臀部を強く壓抑せり此故にスコルトの重量を單に腰部にて支へしめたるを以て其結果は延て脊髓骨に及ぼし爲めに彼女は久しく病床に臥たりき彼女は病未だ治せざるの時床上に在て曰「我病再び治する事あらば必ず一種の改良服を製し啻に我爲のみならず天下衆多の婦人をして健康ならしめん云々」

と彼女は今日其意を果たせり其種々の改良服中に「ドィヴァイドッド、スコルト」(日本の袴の如く裾の分れたるもの)と云へるあり妾は之を以て甚た都合よきものと信ずるが故に女學雜誌購讀者が一應之を知らん事を希望するものなり妾が今讀者に示さんとする處のものは格別六かしきものに非ず單に大なるヅボンを二ッ縫合せたるが如きものあり而して其幅は二重にして一ヤードの四分の三(一ヤードは凡そ我曲尺三尺)即ち一單にして一ヤード半の幅なり實際之を着用せしものは此服の功用を明かに認むるならん此服の裾は長くして脚腕に達し脚部に於て兩足相縫合す然し兩足は縫合さゝるをよしとす其腰部に附着する所は今日迄着用せし下衣と大差ある事なく腰部を纏ひ其上衣と接する所はボタンにて繫ぎ兩足の間には少しくヒダを作り歩行の際ヅボン如く兩足相分れたるを現はさゞる樣製す今此に精細を書きあらはし能はざるを以て左に一葉の畵を挿入し讀者の高覽に供せん其一は上に着するものにて其下端にスコルトを接せしむ。

上に着するものはミルラー夫人の發明せしものに非ず之を着用する時には鯨の骨(通常用ひる所)を用ひざるを宜とす之を用るはコルセットを用ひるより害少なく其重量は甚た輕きも温度をよく保つなり其重量の輕きにも拘はらず身躰を温かならしむるは實に驚ろく程のことなりミルラー夫人嘗て毛織の

THE EQUIPOISE WAISTS.

Patented.



THE TURKISH LEGLETTES OR DIVIDED PETTICOAT.

PRICE OF PATTERN, 20 CENTS.

Manufrctured garment.

下衣を製し之と輕きフランチルのスコルトを着用する時は冬の寒氣をも防き得べし云々と云へり妾は之を聞きしとき彼夫

人の云ふ所は誤りならんと思へり而し妾が少しく經驗せしに此事は偽りならざりき彼夫人が發明せし服は既に云へる如く兩足の間にヒダあるを以てよく兩足を温かならしむるのみならず大に其運動を自由ならしむ故に身躰の冷へる事も少なく從前の服裝に比して身躰に益ある事少々に非ず妾は世人が速に之を着用するに至らん事を望むものなり右改良服なるものは綿布毛織若くは絹布にても製し得べし各國氣候の寒暖と之を着用する人の希望に從て適宜の品を用ゆるを可とす今日米國に於て次第に此服の流行せんとする傾向あるを見て妾は喜びに堪へず聊か報ずる事如斯

ペンシルヴァニア州フィラデルフィア府

千八百九十年一月　メーリイ　エルキントン

女學雜誌記者閣下

衣服の事に就ては彼是用語を異にし彼の語にして我になきもの甚だ多く爲めに精細を譯出する能はず不分明の所あらば讀者願くは繪につきて推讀あらん事を

譯者誌

批評

廢娼

去五日、府下明石町十二番地廢娼雜誌社より發兌す、一冊五錢にして月一回の出版あり、欄を廢娼、論説、演説、祝詞、寄書、雜彙の六部に分ち、皆な熱信誠實の文辭なり、祝詞に中島信行氏の書を載す、中に云く、

……嗚呼何れの日か同論者が素意を遂せざるの事なからんや娼は廢すべきや存すべきやの問に對して誰か廢すべからず存すべしと謂ふものあらんや其之を存すべしと謂ふものは其これを廢するに當ては其一時の得失利害を危みて爾か唱ふもののみにして永世この汚穢の空氣を遺存せざるべからずと謂ふもの蓋しこれなかるべし多年猖獗を極めし汚穢の空氣も愈敗陣の兆を現はせり縱然全く未だ旗を降すに至らざるも最早到底打勝の望あらざるべし漸く燈暗く人絶ゆるの邊に於て生存せん事を望むもの丶如し然れども之を逐ふ者其邪邊の容赦なく全く絶滅せずんば已まざるの勢を有せり必竟汚穢の空氣をして猖獗を極めしもの社會これを忌まざればなり咎めざればなり又恥ざればなり既にこれを忌みこれを咎めこれを恥るものあるにいたつては漸次に其跡を絶たざるを得ず今日天下の人悉くこれを忌み咎めざるも早晩これを咎めざるを得ざるにいたるべし何となれば社會中既に其濁れたるをしらば清に移らん事を望み暗きを悟れば明かに趨かん事を希ふ者の勢力遂に濁さ暗さを驅つて清さ明さに歸せしむべければなり……

又、

今や青年の諸士相謀つて一雜誌を發し專ぱら廢娼說を以て主さ爲さんさ余素より諸士が一片の義心已む可らざるにあつて事の難易を卜して事に茲に從事するに非るを知る、然れども諸士に一言せんさ欲するものは諸士が此の志を逹するや實に易事に在らざるを諸士が志を逹するは勝を一時の奮戰に取るに非ずして精を養ひ氣を凝らし漸次に步を進めて終に全勝の凱歌を謠ふにあるなり。

吾人亦た同精神を以て編輯者諸君に告げ、且つ此雜誌の彌よ勢力を得て遂に國中に其同志者を得るに至らんとを熱望すと云ふ。

雜誌の時代新聞の時代
而して書籍の時代

擊村居士

若し夫れ海潮の滿干を知らんさ欲せば吾人は之を曆數によつて知るを得べし而して社會の大勢世の盛衰の如何は何によつて之れを卜知するを得べきや社會さ云へば廣し世さ云ふも漠たり之れを論じ之れを談ずる世自ら其人ありし吾人は實に其任にあらざるなり其任にあらずして叨りに之れを議する僭越其罪を知らざるを乞ふ恕せよく然れども吾人は只僅に之れを知り得たり何ぞや曰く近時文學上の盛衰を否ふ盛衰さ云ふよりは寧ろ其歷史を。

猶々道人巧みに猶洒落誌を書くの時代柳北翁妙に雜錄を草するの時代は吾人は今之れを云はざるなり春の屋氏曾て書生氣質を編してより以來世の之れに類せるもの否な寧ろ眞似たる氣質もの凡そ世間に續々出てしや鉄膓氏雪中梅を著はしてより以後何程の政治小說なるものあらはれしや吾人は實に其數を知らざるなり美妙齋氏一たび言文一致を唱へてより寒月氏元祿の西鶴を明治の今日に引出してより思軒氏西文飜譯を以て世に知られしより是れ等諸士にならひ是れ等諸士に擬して今日まで世に顯出せし小說著書は凡そ何程ぞ而して今や將に其腹案中にあつて他日花々敷? 世に出んさしつゝあるものはそれ幾何ぞや吾人は實に之れを知らず然れども是れ等幾多の著書小說の枠に上りし間に於て吾人は僅に其文學上の流行なるものを認め得たり夫れ然り吾人は今之れを只だ流行に付て云ふのみ敢て諸氏の伎倆を可否論評するものにあらざるなり思軒氏流の飜譯文流行の環內に於て決して長く世の愛顧を得るものにあらずさせば西鶴其磧の丸呑も到底永續するものにあらざるべし言文一致又同じ政治小說もさよりなりさては彼の氣質類も又一時なりしなり嗚呼浮薄なる世の流行何ぞそれ來るの早くして其去るとの速かなるや女學雜誌記者曰く

新聞

は國民新聞江湖新聞双び出てゝより頓に生面を開き何處も競爭に忙はしきが如し讀むものは漸やく心地よくなるを喜ぶ

批評

は正に人物批評に移れり朝野新聞は遠慮なく酷評し國民新聞は面白く評述し改進新聞は小說家らしく叙評せんさす

小說

は不向さなり下火辛ふして殘ころ慷慨文も復た引立たす人心浮氣に倦を生して固きものを好む

雜誌

は之れに連れて嚴格なるものが行はる近頃新に起る雜誌を見よ曰く日本評論云く福音週報云くユニテリアン(二〇三號を見よ)

さ而して女學雜誌記者をして此言を發せしめたるものは何ぞや曰く吾人は斷じて之れを時の流行然らしむるなりさ云ふを躊躇せざるべし嗚呼流行なる哉此流行に連れて小說著書の盛衰ありしさ同時に吾人は又世の雜誌さ書籍に盛衰ありしとを知れり春の屋氏書生氣質を編せし時代鉄膓氏雪中梅を著はせし時代は猶は未だ書籍の時代にてありしなり美妙齋氏言文一致を唱へて爰に初めて雜誌の時代さなり寒月氏元祿の西鶴を引出してよりいよく益々雜誌の時代端物の時代さなりしなり而して吾人は國民の友紙上に於て思軒氏の飜譯文を見る以前の如くならざるに至りて以後雜誌の時代は既に經過せしを知り今や將に鷗外森氏の時代さなりて而して新聞の時代さなりたるなり然れども世の流行は到底長くこの新聞の時代をして持續せしむるものにあらずさせば此時代又いつか變じて他の時代之れに代つて來るものあらん而して之れに代つて來るものは何ぞや吾人は斷じて之れを疑はざるなり曰く再び又書籍の時代にかへらんさ聞く此頃獎庭篁村氏の著小說勝鬨なるものを府下春陽堂にて出版すさ其躰裁を問へば曰く木板彫刻和製美本さ之れなる哉く吾人は信ず追々書籍の時代さなるべし。

新誌

謹訴輿論

民法人事編の製造忙がわしき折柄、相續法を長子相續にすべきか、分派相續にすべきかの事大問題となれり、此時に當り專門法學者の外に絕へて之に注意するものなく、世人大率れ枯松東風の狀あるは殘念の事と云ふべし、但だ志士中原清、秋山信太郎、野入富四郎、武居熊吉、矢野力治の五氏「謹訴輿論」の一篇を新聞各社に寄送したるものあり、吾人其の誠實愛國の念辭外に溢るゝに感ず、而して論旨に於ても其大躰に同意するもの也。凡そ親の其子に對するや長幼男女の別によりて愛を多少すべきにあらず、然るに一生の遺產を擧て皆に長男にのみ與ふるが如きは元來人情の自然なるものにあらず、況してや若し其子の后生を掛念して之に產を與ふるとせば、幼兒には長男よりも多く與へ、女兒には男兒よりも多く與ふるを至當となす、蓋し長男は子供の中の尤も經驗多く尤も自力に富めるもの也、且つ女兒は世に立ちて男兒よりも憂患の加わるもの也、左れば此の多く憂ふべきものゝ爲にこそ產を多く與ふべきなれ、此時に當つて幼兒には何物をも授けずして只だ之を總領に與へ、女兒には何物をも分たずして男子にのみ給する如きは、其人情を失ふと更にいよ〳〵甚しと云ふべき也。加之之を政治上の關係に及ぼし、亦之を經濟上社會上の關係に及ぼすときは、分派相續法の利益あり且つ至當なるとは更に言ふを待たざるの理ある也、故に吾人は亦た彼の五投書家に贊成して分派論の必ず行れんとを希望す。但し如此き事には法律の余り細かに立入らぬを善とす、然れども若し立入るとせば則はち上述する如きの方向に向つて立入らずんばあるべからずと斷言する耳。

大師國師

文明學の卒先者たる前野蘭化、松田鶚齋の二氏に贈位を仰ぎ請ふとの一事、醫學會に於て議決せられたり、之に對する時事翁の反對論は何如にも尤もにして、亦た其の窮策として呈出せる法方も頗ぶる面白し、即はち之に正何位など〻云ふ位を授けずして、大師、國師、の號を贈るか、若し之が佛くさしとあれば大博士、勅命博士などにて宜しからんと云ふ也。それ大師、國師とは一國の先生と云ふの義なり、決して佛者にのみ限るべきの稱號にあらざるが故に、吾人は寧しろ此等の名目をこそ擇ばんと望むなれ、特に蘭化、鶚齋二先生の如きが左樣に稱せらるゝに於ては、從來誤つて之を佛臭視したるの僻見の漸やくに取除かれ、弘法、親鸞の諸豪傑は正に地下に快笑するなるべし。

國文國史

國文國史と云ふ事も亦た近來の流行の如くなれり、左れば今や府下に於て之を教授するの學校も春草の如くに萌え出で、之に伴隨せる講義錄及び雜誌の類の發兌も野花の如くに開き初むる也、左れど此は喜こぶべきの一現象なれば、願くは假りの間の夢とならず、確かに其實益を遺して明らかに國文の粋を發揮し國史の光を輝やかさんとを望む。近時新たに發兌したる、國文國史講習所の講義錄の如きは、蓋し此望を滿足するに近きものなるべし。

同志社の發起者、設立者、創業者

國民之友第七十八號に掲載したる、浮田和民氏が同題の論文は、極めて價値あるの論文なり、其一事業の發達を叙する歷史的の觀察に於て甚はだ勝れたる處あり、其の新嶋君の品性を解剖する心理的の觀察に於て亦大に見るべき處あり、啻に同志社の事に注目するもの〻必らず一讀すべき價値あるのみならず、凡そ一事業を成了せんとする者、及び其事業の跡に鑑みんとするもの〻、當に一讀すべき處ろのもの也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

閨秀小説家答

第四　竹柏園女史

佐々木昌子、竹柏園女史は、都の花に「胸の思」を投じ玉へる方なり。

うけたまはりぬとみにおほんかへり事まゐらすべきをさいつ頃より風の氣にかゝりてつくろひゐ侍りてなんとはせ給へる事どもよ樂府ををしへまゐらせてたにいといたうかくしたりしむかしの人のうへなど思出でたゆたひはべりしかどふりはへてとはせ給へるをむげにいらへまつらぬもなめげに侍れば小説をつくりしは心にふかく思ひこりしことのありつればかきこゝろみ侍りつるなりされどはじめてのはいまだ世にいで侍らずかきこゝろむる度とにわれながら我心にもかなはぬをなげき侍れどみつからみをやと思ひかへし侍りてなん。

理想などいふこと〳〵しき事はたど〳〵しう侍れどかの源氏の物語をみるに紫のおもとの清き心のかゝみにてらしめにみえぬ人のこゝろのおくかをかきあらはれし又其頃の人々ことにはかせがくしやうなどのありさまをさへうつし出していにしへの手ぶりをさくるたつきともなれるをこそいみじとは思ひとり侍れ。

このみてよむは源氏のみにてことにくりかへしみ侍りしはあまよのしなさだめ若紫をとめ手ならひなどに侍り小説にはあらねどかたへはなたぬは大かゝみ枕のさうしに侍り。

ちか頃の小説又文學につきてかれこれいはんは女のやうにも侍らずかつはうらはづかしきかぎりに侍ればなん。

さてもうち思ふまゝをかきみたりて御らんぜさするはあなかしこや。

いは本の君のたもとに　　竹柏園女史

ブラウニングの逸事

雲の舍主人

客年十二月十二日伊國ヴェニス府に於てブラウニングが逝去せし事は既に諸新聞の報道する所なり彼は千八百十二年五月七日ロンドンの近街キャムバーウェルに生れ幼時の教育はダルウヰッチ及家庭に在て受けぬ次でロンドンの某大學に入りしが學位を得ずして退きぬ彼の家は富貴にして職業を營むの必要なかりしを以て讀書と旅行と文學上の事業に世を送りぬ詩人として彼が一世の大家なる事は世の普ねく認むる所なり彼の詩は謹嚴壯重にして希望的の思想を現はす然れども之はブラウニングが謹嚴壯重なりしが故にして少しも裝ふ所なしされ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

はプロェッサフー、コルソン氏も彼につひて「ブラウニングが好んで文意を曖昧になし趣向を錯雜ならしむなど云ふものは未だ彼を知らざる暴評者と云はざる可からず云々」と云へりブラウニング自らも亦嘗て云へり「余が著せし所にして人の解する能はざるが如き難澁の字句はなき事と信ず若之れありとするも余は故意に斯る字句を用ひしにあらず云々」亦或人嘗て彼に云へらく「余は御身の詩を愛讀する久しさりながら此に解すべからざる一文あり云々」と彼答へて余が之を解明するを要せず御身は之を解得する迄熟讀すべし之が爲めに費やす時は決して無益に非ざるべしと云へり彼の詩が謹嚴なる此一事を見るも明かなり。

モロカイ島の新ダミエン
一少孃、癩病島に入らんとす

（二）　碓氷山人

余は亦問へり、

御身は癩病患者の爲め盡力する爲俸給を受け給ふや

然り妾はハワイ政府の招きに頼りて年々俸給を受け亦今回の航海費も彼政府より支給せらる、妾は先きには俸給を受けざらんと欲せしが亦思ふ樣若し之を受くれば余は　即ち看護の任を盡さゞる可からざるに至る故妾の望を遂ぐるの心を勵ますべしと此に於て始めて之を受くるに至れりされど妾の一身には左程要せざれば多くは之を病院の爲めに費さんと望むなり

誰が御身をハワイ政府に招介せしや

と問ふ彼女答ふらくハワイなる某友人とパリスの友人なり彼等が妾を助け呉れし事は今精しく語る能はずパリスの一友は妾が彼地にありし時より種々力を盡して妾を助け呉れぬ夫れ故容易くハワイ政府と相通ずるを得たり余は更に曰くダミエンの病死以來常に聞くが如く

恐るべき癩病の事は御身をして氣を沮ましむるに至らざるか

否々決して此憂ひなし妾はパリスにて癩病を見たり是素より未だ病狀の劇しきものにては非りしかど妾が斯る病人に對して恐れざる事は確に知りぬ亦パリス大博覽會にてハワイの癩病患者の手足や頭を見しおり（素より見て快きものには侍らねば）妾の友人等は之を見て病を起しぬされど妾は何とも感ぜざりき此時話柄を轉じて

ファウラー孃よ御身は何時キャソリック敎を信ぜら

れしや亦何故に？、
と問ふ彼女亦答へて曰く然ればなり妾は幼き頃より新教より
キャソリック教を好みぬそれ此教にては深く天使を尊みて之
に祈り之に事へ常に之と交はればなり爾後愈此教を奉ずる
の念強く今を去る八年前遂にローマ教會に加はりぬ貴下の御
推知の事と思ふが妾の父上は英國教會の僧侶にして母上も他
の友人にも一人として妾がキャソリック教に加はるを賛する
ものなかりしを以て妾は隨分困難の地位にてありきさりなが
ら父上は甚だよき人にて妾の宗奉を許し給ひぬ妾の兩親は今
度妾のハワイ行を賛翼せざれど亦妾の前途に妨を為さんとも
し給はず妾に一人の姉ありアフリカに働き居りしが間もなく
歸り來つべし姉は妾の行くを好まず妾は亦一人の妹及び弟あ
り妾は到底彼等と別れざる可からず妾がロンドンにて
　カードィナル、マンニング氏と別れんとするや
氏曰く御身は我愛子（ハワイの患者を云ふ）の看護を託せら
る、余は御身が上帝の命に從て彼地に渡を妨げんとせず否妨
ぐる能はざるなり云々此時余は別れんとて立上りぬ。少女
　其寫眞を取り出し
て今度面談せし記臆にとて余に與へぬ見れば其上に彼女の姓
名と彼女が愛讀せし金言を書したりき余が將に立出でんとす
るや彼女は余の傍に來りて躊躇別を惜むに似たり見れば彼女
の双眼はいと悲しげに曇りはてぬ薔薇色の頬に滴る萬斛の熱
涙に咽びつゝ彼女の手に持ちたりし祈禱書を余の身近く持ち
來り顔赧らめて云ひける樣妾尚一ッの云ふべき事あり果して
之を貴下に告ぐべきや否やを知らずされど云はざれば妾がハ
ワイに渡り癩病患者と共に困苦する所以を貴下に知らす能は
ざるを如何せん祈禱書の片端に一葉の紙を挿めり見れば一文
の祈禱を書きつけたりこは是昔しザラランド戰爭の時打死せ
し公子の胸にありし祈禱文なりきファウラー孃の指さすまゝ
に讀み下せば其文に曰く「嗚呼神よ若此世に於て多少の幸福
を與へ給はゞ乞ふ我分を取て之を他に與へよ……汝若し人
類の罪惡に報ひ給はゞ乞ふ先づ我を罰せよ」云々やがて再會
を望みつゝ別離の言を為して立出でぬ時に黒雲空を蓋ひ天色
慘憺たり一月下旬。

斯て其寫眞はブシエットの帋上に載れり、轉じて又本帋第一面に載たり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

敬宇先生の詩

左の詩は同人社親睦會席上に於て朗吟ありけるもの也、其時附演して云へらく、初句「幸福者人生歸宿」の一句は、ポープの人論を讀みて感じ咏じたるものなり、末段郭子儀の語は彼れ天主教を信ぜしによりて發せしものか、終句朱子の言は其語類より摘出したりと。

庚寅四月三日同人社親睦會以詩代演說

幸福者人生歸宿。吉祥安樂攸好德。眞福不隨形生滅。智
者信其無窮極。天之錫福無偏頗。災禍亦導人於福。天人
之際捷影響。君子終日夕惕若。人有靈明天衷心。是乃神
之所教敕。縱能成天大事業。一切勿驕傲謂己力。試觀人世
千般事。因果報應如照燭。少不勤學老無聞。春不力耕秋
何穫。君不聞富蘭林。平生幸福感天錫。又不聞郭汾陽。因
信天命致功績。噫嘻人各有職分。勞苦之中心快樂。不求
人知求天知。朱子此言願同勗。　敬宇　中村正直

HAPPINESS.

"And now I speak of thanking God, I desire with all humility to acknowledge that I owe the mentioned happiness of my past life to His kind providence, which lead me to the means I used and gave them success. My belief of this induces me to *hope*, though I must not *presume*, that the same goodness will still be exercised toward me, in continuing that happiness, or enabling me to bear a fatal reverse, which I may experience as other have done; the complexion of my future fortune being known to Him, only in whose power it is to bless to us even our afflictions."—*Franklin's Autobiography.*

智力の遺傳

Y. I.

私は嘗て遺傳の話しと題して肉躰に關する遺傳の事を申しました今度は智力の遺傳に付て少し述べましやう全躰智力の遺傳は最も大切でもあり亦著しき實例があるのです古往今來智者の子には智者が多く賢人の子は多く賢人であるのは人のよく知る所ですソクラテス、プラトー、アリストートァル、ミルトン、シエーキスピーア、と云ふ樣な有名の人の子孫に有名の者が出てをいと云ふので智力の遺傳てうものはないと云ふ人があります而して有名の人即はち非常に智者となり學者となり賢人となり君子とある人々は天の生ずる所であつて人爲でもなく遺傳でもないと云ひます而し是は父母の遺傳が互に消却すると云ふ事を知らないのです父がよい性質を遺傳しても母よりの遺傳が惡るい時には父よりの遺傳も消却せらるゝのです是に加ふるに先祖の遺傳があつて父母の遺傳と相消却する事があります是が子供の智力が父母に似ない原因です斯樣の原因があると雖も實際に就て見れば智力の遺傳は明白の事實です今

其實例

を擧れば紀元千四百五十三年と千八百五十三年との間に（西

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

洋で）有名なる人を擧げた人名字書があります其六百五人の內百二人程は互に血統の關係ある親類ですウヲルフォルド氏が著した「當代の大家と」題する書中には歐米今代の大家が悉く擧げてあります始にAの字のつく人が八十五人ある中二十五人は親類です即ち惣數の三分の一は血統の關係があるのですブライアン氏の畫人字彙中のAの字の部に三百九十一人あるが六十五人即ち六分の一は互に親戚であるのです其六十五人中三十五人は親子であつて三十人は兄弟です亦フェッチス氏の著に係る音樂者の字書のAの部に五百十五人ある其中五十八人即ち惣數の十分の一は至極近い親類です單に文學者だけに就て考ふるも大家と大家と親近なる事明かです希臘の詩人エスキラスの先祖中には八詩人四音樂者ありしと云ふ希臘にて有名なる彫刻家は大抵彫刻家の子孫であります斯の如く智力の遺傳は著しきものなるが故に賢婦賢人に嫁し才女才夫に配する時は其子孫は益々賢明なるに至るでしやう。

おかげ參り

高橋おろか記す

本年は天保元年より六十一年目に當れりとて伊勢神宮へおかげ參りと稱して參詣する者多きよしなり、さて此おかげ參りといふ始め詳らかならされども伊勢三重郡鹿間村に紀元二千百年代の御陰參りの職ありと云ひ傳ふれば既に當時より此事ありしか、倭訓栞おかげまいりの條に、慶安三年寅の年春より卯の年に至り貴賤太神宮に參詣せしに一日に箱根關所を過る者八九百千人に餘る其旅裝悉く白衣を着したりと寛明日記に出せり、寛永酉の年にもありしとぞ、其の童謠にいざや春駒引つれて、袖引つれて今まいろ伊勢參りとうたひけるとぞ、さあり、此時參詣人のありさまを鹽尻に、寶永二年の春諸國よりおさなき者ども多く太神宮へまふで侍りぬ、いつもぬけ參りとて有事ながら今年の如く數万人幼童のむれたるゆきかふ事聞も傳へ侍らずと宇治山田の者とも云へり、閏四月頃よりことに多くなりしかば淀膳所水口安濃津なんどの守よりもかの童どもを憐み（中畧）京難波に數十艘の舟をうかめ、燈を出し、又は食を與へけるほどに、衆万人の男女道もやすらかに郷里を過る如くせし、是又一奇事なりける云々」その他一話一言武江年表寶永千戴記玉勝間るごに米穀金錢布帛食物等施行せし趣きあれど、おほかた前書に同じければ畧けり、之れより享保三、明和八、文政十三、即ち天保元年にも伊勢參宮流行せり、後ほどふく外交の事件或ひは王政維新の改革あり、従つて人民參宮の暇もあらざりしが明治十年の役後社會靜謐に歸するを以て本年また〱おかげ參りの事起りしものと思はる因てその大畧を記して過去談の一草とはなしぬ

和歌の浦波

池袋清風

案山子酒舍京都第二社中

山立春

東京麻布　津田久之

朝日さす　深

、ふじの根の高根の雪のかすかにも霞むや春の徴なるらん

評　ねの高ねのはあまり面白からずそは連峯多き山はさもかくもふじのねといはゞ打つけに高根の感生ずる故更に高ねと續けてはくだく〱しさてはかすかにもの句に力をつけん爲朝日さすと斧正せり

雪中梅

、、小笹原下根の雪をふみながら梅のつぼみを手折りける哉

評　花の梅とはいはず梅の花を折るといへば矢張梅のつぼみともいふべし

朝梅

、うち霞む野中の道の朝ぼらけ消ゆく月に梅が香ぞする

夕梅

、山本の川そひ梅の花盛かすみてにほふ夕月夜かな

月前梅

さく　梢

、、しら梅のみつ枝に月は傾きて岡邊の花に夜は明けんとす

評　みづ枝は稚き枝にてさし出たるものならん夏ならばよろし若葉榮しければ也又白梅とは白菊とも云ふより新詞を用ひられたらんも此處とまで詮なし

折にふれたる

、、鶯の初音そへなばいかならむ岡邊の梅に月かたふきぬ

早鶯

、都人まだ雪わけぬ山陰の梅のつぼみにうぐひすのなく

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

きよめぬ庭

洒落齋主人

其八

自惚の男

さり共とのたむの雁を頼みにて入間の里にけふぞ入ぬると俊成卿が詠ぜし、武藏の國入間川の邊に、何某と云へる者ありけり。そが昔は、名ある一族の、此邊にさすらひ來て、終に住民となりたるなり。此男生れながらに、容貌淸麗にて、楚の安陵君の秋の波、魏の龍陽君が春の媚はものかは、眞雅僧都に岩つゝじの歌よませたる、在原の業平が童だち、熊谷直實に鎧の袖濡させたる、平の敦盛の面影にも增し、余りに美しく、男には惜しき容貌よ、いとにくしなど姫達に妬まるゝ、洒落齋の年少き時も、かゝる可しとは見えぬまでの、美男なりけり。されば彼方此方の女もちたる親は、そが女の容貌の見にくきをさえ、欲目とか云へる目にて見けるまゝ、いと美しと思ひて、婿に欲しゝ、嫁にやらんなど、いとかしましく請はるゝものから、己も自然と自惚の氣高まりもてゆき、終には高貴の姫君ならずは、己が妻には相應しからずとて、いつも强面く緣談をなん却けゝる。

その年の春も始の頃なりし、天下悉く痘瘡の神の訪問來まして、われ彼の男も、此神に訪問られ、いやが上にも、下ざまに云ふ松皮痘瘡とか云へる、此病の中にも、重き症にて、發熱、出痘、起脹、貫膿、收靨と、三五の日數を經て、漸く病は息り、なほ幾日を經ぬる後、殘りなく愈たるも、球玉を欺かんばかりなりし容貌は、黑松の皮膚みたる如くなりて、昔の面影は餘波もなく消え失ぬ。實に恐る可きものは痘瘡の病にこそありけれ。それに就きても今の世の人が、種痘と云へるものして、天然痘の災を免るゝこと、單に英國のドクトル、エドワード、ヂェンナー氏の、牛痘の發明とは云、日進醫學の御蔭ならずしてなにぞ。自惚强かりし男も、此後は獨り折れして、はや美男子など自慢す可きものに非ず、人の容貌は、何時の間に變らさらめやはなど、心に悔ひ、再度とは自惚の氣、出さずなりぬ。時しも明治廿三と云ふ年の春、花の都上野の山に、櫻花の盛りに咲き出で、雲と見ては、今宵の月にうからましよしや芳野の櫻ありとも』と松永貞德の詠ぜし、芳野山の詠めも、ものかはと云ふばかりなるに、博覽會など云へるものさえ、開設られたれば、彼の男もこれ見んとて、昨日の正晝ごろ入間の里を出て都に來り、其夜は假の宿につき、明日は早旦より上野に到り、それこれを見果て、今や鶯溪の邊まで來りし頃、向より來かゝる女子なんありける。容貌美しく、身裝いと優に、供なる可一人の

少女を連れたるが、二足三足さきより、ほゝ笑つゝ、彼の男に對ひていとねんごろに禮をなし「いと卒爾には侍れど、ひたすら願ぎ申度き事の侍れば、此所よりは程遠くもあらぬ、妾の家まで來り給へ」とぞ云ひける。彼の男しばらくにて、かゝる美しき女子より、優しき辭をかけしものから、身のうち粟だちて、しばしは恍惚と、物も云ひ得ず、心の中には、はや過去よし、自惚と云へる惡津神の、再度誘ひ來て「アゝそうして見ると、己も未だ見捨たものではないワイ」と思ひしまゝ、女子の辭に任せ、そが家居になん行ける。

そが家は、鶯横町の邊りにて、門口と云ひ、家居のさま、いかにしても、平凡ならぬ人の、住居と見えぬ。女の後に就きて、書院と思ふほどの處に、席をしめたるに、若き女共、一人二人出來て「今のほど家婦の願事申さん爲罷る可きに、くつろぎて居給へ。時も夕近くなりぬ、もてなしとてはあらねど、此にて酒一つ過し給へ」とて、諸々の肴に、一瓶の酒さへそへて出しつ、其饗應のいとねんごろなる爲、彼の男、心の中にて、「されば女の願事とは、いかなる事なるらん、美しきまゝ、いと若やぎて見ゆれど、はや三十路に近かる可きに、近き頃、そが夫などの身退りて、閨淋しきにより、吾なみを入婿なんどにせんとにはあらずや」など、考へつゝあれば、酒さへよくは飲み得ず、半時もすぎつる頃、先の女の身裝して出來り「いと無禮なるもてなしなれど、うけ給ひてこそ嬉しけれ。妾の願事は、げに云ひ出にくき事なれど、奥の一間まで來まして、せちに受けがひて給はれ」とばかり、さも口重げに云ひ出たれば、彼の男はます／＼、そが願事の、前に考つる事なめれ、こはまた僥倖なることもあるものよ」と、はや入婿になど、なりしこゝちして、耳の邊りざわ／＼と鳴り、足の運びもさだかならず、伴なはるゝまゝに、奥の一間に入りて見れば、其所には美しき屏風など引廻し、内に燈火の光明く、閨の設したるさまなり。彼の男の胸の邊は、今や心臓の鼓動はげしく、衣通して見んばかりなり「いざこなたへ」との辭につれ、屏風かひやりて見れば――内には一人の童なん打臥したる。

女は男に對ひ「妾の願事とは此事なり。此の童は我家には秘藏の獨子にて、わなみの夫は、今獨逸の國に留學の身なり。さるに此兒は、いと耻しき事ながら、種痘を怠りし爲、天然痘に罹り、いと重やかなるものから、妾は寢食をも打すてゝ、看護し居れど、いかにせん我慢に育てし事なれば、かく掻きむしるときは、後に黒菊面となりて、見る影もなかる可しと云へど、少しも聞入なく、いと困じはてたるに、今日しも御身を見かけ、此所まで請じ參らせたるは、御身の面をば兒に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

示して誡しめたらましかば、妾の辭を聞入れん歟との、こゝろにしあれば、燈火の許へ近づき給へ」とて、彼の男の面をば、童に示しつゝ「そなたも、母の辭そむきて、疸の痂かきむしりたらましかば、此の人の面の如くならん。忘れても掻きはせさせぞよ」と兩度三度繰返したるのち、はや願事もすみたれば、とく歸りて給はれかしとて、女供して門口まで送り出でしとなん。

小説

野遊び（其三）

由縁

とし子の目にかゝつた人物は年の頃は十六七の少年です、極く華なスコッチの背廣に乘馬用の帽子を戴き縞琥珀の襟飾りに紅寶石をかませたるゴールドの止針をさし、股裳の少しく短かきためかロシヤ皮の半靴を穿ちたるその上より時々赤毛糸手編の靴下を見せ手に籐の細やかなる鞭を携へ、生垣の傍らより飛び出すと共に後を見てニコ／＼笑ひながら、

何でも外の人に先んじて事をしなければいけん大勢連れだつて探した處で人に自分の功を奪はれるようになるしするから、よろしひ何でもこの邊に違ひない、違ひないが少しもめつからない第一自分がめつかるだろうと云ふ恐れがあるからビク／＼して行かん何でも己れが目付てやらねば承知せん、人にめつけられた日ニヤー何にもならないから、……さつきはおとしさんが見えなかつたようダガ。

少年は四方に生繁る熊笹などかきさぐるかと思へば殘刻にもまたうちたゝきなどして全じく花束をさがすようデス、とし子は此の少年を見ると共に

長岡サーン。

と一聲高く叫でその儘傍に生立ちし年經る松の木影に身をかくしましたが少年はこの叫聲を聞くと共に愕然としてさては我れよりも先きにはや人ありて、このあたり迄來りしと思へば今更いと口惜しくそも何人が我が名を呼びしか確かに彼の草叢か松のあたりに居るべしと早足にかけ來る樣子をとし子は見てもはや隱るゝ隙もなければ覺悟を極め氣味惡るそうな顏をして立て居ます軈て少年はかけ來りて松の梢などを見上げ一まわりすると後手に立て居るのがとし子です

オヤあなたはどうなすつたノ、皆さんとおぜいらつしやらないノデス、たつた獨りで

とし子は笑ひながら

私しは人より早くめつけたいから、大勢連れだつてさがし

た處で人に自分の功を奪われるようになるしするから。

長岡の顔をドーダと云わぬ計り打見やりなほ語を次で

あなたはどうなすつたノ、皆さんとなぜいらつしやらないノデス、たつた獨りで。

長岡の云つた通り口眞似をして聞かせましたがしまひには堪へぬ計りに笑ひ出しました

おとしさんあなたは人が惡るひてはありませんか、そしてアノ花束は目つかりましたか。

エー目つかりました、私がたしかに目つけましたが口惜ひでしよう？長岡さんあなたわ。

ソーデスかそんならよかつた二つとも目つかつて？

イーエ一つですそれも私しがめつけたノデハナク自然と目付たのですからさがさぬうちに花束の方で出て來たノデスから本當は私の手柄ではないノ！

デモあなたが御さがしなさればよいと私は――私も思て居たのです、あの花束をさがし當た人は白絹の洋服に花輪の祝ひをうけるのださうデスから。

白絹の洋服は何にするのデスソシテ花輪の祝とは何の事デスカ、エ長岡さん。

まだ御存じないのですか、それが今日の野遊びで一番面白い事なのデス、花束を得た人は白絹の洋服に美しひ白薔薇を以て飾りあの花輪の中に立て自分は天の使になつたつもりで花輪をもつて居る人に何でもかまはないからこつちから云ひ付て藝をさせるノデスト。

ソー恐い事ネーもし藝をさせられたらどうしましよう。

何でもありませんおとしさんは藝をさせる人ですもの私あんぞこそ恐いノデス。

長岡さんは多藝だからイーワ、ソシテ私は藝をする人にあるかも知れないノ、私は前から仁田のおぢさんが花束を置た處をよく見て知て居ますから

正直にかくす事なく云ひ出し升た己が手柄でない事を、此少年も心より感じました、日頃より愛して居る此人の言を聞て。

おとしさんよく正直におつしやつた事何事も……しかしまだ一つ何處にか花束がありますから、私もあなたの爲めにさがして上げましよう、築山の方がイーカも知れません池の方へおりる時道が惡いから氣を附ていらつしやいよ、私が手をひいて上げましよう、

二人は池の方へと坂を下り行けば下よりは大勢の聲がだん〳〵

と近づひて來ます、はやまじかにありましたがとし子は其時急に小年の手を振り拂ひ少しく後れて歩みましたが何の事かわかりませんパタ〳〵の音と共に息をきつてかけ上り來るは仁田の悴五郎です、

長岡さん、オイ健さん何處へいつたのエ、何處へ君岸本おまつさんがチー花束を目つけたよ、そしてもう一つ何處かでさがすと云て居るの、僕にやー……僕がチー君、殘念な事をしたヨもう一足ダッタ。

後に從ふとし子を見ると一層聲を張上て。

オヤおとしさん何處へいつて居タノ、およしが大層さがして居ましたよ花束が目つかりましタカ。

エー……マー。

ツー目つけたのおとしさんは札の付て居る方でしようお松さんのが何も付て居ないのダカラ唯だ花輪の中へ立つ許りですがあなたは白の洋服を着るのよ。

この時既に七八人の子供は此處に集り來ました五郎は見るより大聲に

札付の花輪はおとしさんが見付ました。

アレ五郎さん皆さんに云つてはイケマセンよ。

ナゼです、

皆さんが本當におさるといけないから。

時に眞先にツカ〳〵と歩み來りしは岸本松子です自慢そうに菫の花束をもつてとし子の傍へ歩みより長岡の顏とし子の顏を合せ見て意味ありげなそして腹立たゝしき樣子にて。

おとしさん、すみれの花束見せて頂戴。

寄書

淫用物の賣買嚴禁す可し

大和郡之助

嘗て先人に聞く德川の末代に於て東都大に春畫流行す志士以て亂衰の兆とせり果して德川敗滅せりと謂ふに如斯もの獨り德川の末代のみならんや試に與國の亡國史を繙けよ汚穢なる空氣——德義の削耗是れが因たらざるはなし我國維新以來泰西物質的文明の潮勢横溢すると共に洋狂者流の跋扈すると共に人類は華美に流れ惰弱に赴き活氣なく精神なし况んや第廿世紀の劈頭に於て繁雜なる舞台に立たざる可からざる有爲靑年すら彼の門閥の胎内より生出せる軟弱兒——華族靑年——を學ぶに非ずや咄何等の現象ぞやあゝ我國人が嘗て有せし敢爲不撓の精神は既に逝去したるか凜烈激々の活火は既に灰燼とありしか吾人之を知らず然れども彼の姦淫てふ空氣は妄りに會釋なく動搖し大臣も靑年も何人をも慴服し降伏せしむるを知る彼の嫉む可き淫猥汚穢の無節操の文學は擅まゝに縱横公行するを知るこれ吾人の常に痛歎する所吾人の日夜救策を講ずる所唯此一事にあり而して近來殊に激昂已む能はざるものあり何ぞや。

云はくルーデサックの公賣及流行なりとす。

あゝ浮世も奇怪なる哉何ぞ此の如き變幻怪事多きや抑もルーデサック何物ぞや正義の士多くは知る人少からんコレ西洋小間店發賣する所の淫用物なり吾人は此物躰の如何なる必用ありて流行する如何なる社會に流行するや之を說明するに忍びざる可し况んや清淨なる紙上を汚すに於てをや好し一歩を讓りて此れを私賣する或は赦す可きとするも店頭之を公示し或は私方ルーデサックありと特書し或は說明書を附し恬然賣買する者あるに至りては咄何等の現象ぞや今や內國博覽會開け億萬の人都城に會せんとす是の時に當り當局者は銳意此れが賣買を嚴禁すべしたとひ歐洲は此が公賣を赦す所あるも苟も正義を以て有名なる大和魂の根元たる我國は此れが賣買を嚴禁すべし事小なりと雖國家の元氣消長如何に關せりあゝ當局者よ速に此怪物を驅逐せよ願はくは早く德義頽敗の起因を防禦せよ願はくは將來の日本をして浮漂薄弱なる東洋の一小嶼たらしむる勿れ予時細雨瀟々たり喟然久之。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

蓄妾の弊

佃野繁莊

左の一篇は二ヶ月以前に投寄ありし者にて加藤外山兩博士が未だ論出せざりし以前の寄書なり、起草者の爲に之を辨じ置くと云爾。

太平洋の驕浪怒濤を破つて、「ペルリ」の戰艦浦賀に來りしより以來、外交頻々として開け、泰西の文物は、奔馬の勢を以て我內地に闖入し、百事改良の緒に就き、就中我同胞兄弟姉妹が、唯一の道德と崇めし、婦人三從の敎へや、夫唱婦隨の古訓は、老朽用ゆるに途なく、既に其職を免ぜられ、男女同權と云ひ、一夫一婦と云ひ、斬新の敎理は、我同胞の頭腦に入込み、萬世一系連々累々として傳來し、誰れ一人として其非を鳴すものなし、彼の公娼や、權妻外妾も、最早進化の勢には打勝ち難く、蓄妾の弊公娼の害を唱ふるもの、益々其勢力を加へ、公娼退治の一隊は、蒋驟既に大勝を得、着々其効を奏しけり、諸君は既に隴を得たるぞ、何ぞ突進して速かに蜀を得ざるぞ、敵ハ援を失ひ孤立して滿面蒼として戰慄せり、余輩は今之を攻擊するに當り、第一着に何ものが蓄妾の習慣——陋風——鄙俗をして我社會に成立せしめたるやを說き、逐次其歩を進むべし。

余輩は、蓄妾の習慣をして、我日本社會に成立せしめし所の原因を分て二となす。

第一　儒教主義

孝悌忠信仁義禮智は、八行と唱へ、儒教主義の本體なり、そも我同胞兄弟が、動もすれば權妻を置き外妾を蓄ふるの弊風が發生せし其源は何れに在りやと尋ぬれば、孝てふ一字より來れるが如し、古訓に云へることあり、不孝の罪三つ、後なきを大なりとすと、强ち此古訓が、我同胞兄弟をして、蓄妾の急務を悟らしめたるものには非るべけれども、兎に角我社會の中等以上の道德を養成せしものは、儒教なりしを以て、此古訓が、蓄妾の習慣を養成したること疑ふべくも非るなり。眼を轉じて、彼の儒教信者が、神と崇め本尊と賴む所の堯舜は、其行爲如何と察すれば、堯は舜を畎畝の中に擧げ、妻はすに其二女娥皇女英を以てせり、此時こそは、蓄妾の濫觴なるぞ、堯舜以外に聖賢なしと、之を崇め之を貴び、一にも二にも之を信ずる儒教信者、蓄妾之れなしも美德と思惟する亦宜ならずや。

第二　封建制度

歐洲にあれ、東洋にあれ、封建制度の時代には、武門家名を尊び、血統を重んずるの極、遂に權妻を置き外妾を蓄ふの獎風を養成したり、我封建社會に於ける、此惡習慣の非常の勢力を占めしこと、吾人をして驚愕に堪へざらしむるものあり、見よ彼の豊大閤は、位關白に登り三韓朱明を席卷するの勢ありしに非ずや、去れど習慣の勢力には打負けて、家名を貴ぶの極、藤原氏を冒したるに非ずや、平々凡々の徒が、家名を貴び血統を重ずる亦宜ならずや。一歩を進めて、德川時代の法會を探索すれば、直臣と各藩との間、其制多少の差異ありと雖も、要するに、戶主たるもの相續人なくして死す時は、或は家名を斷絕し、或は封祿を遞減するの法度なりき、是に於てか、武人は戰々兢々として、唯相續人あれかしと祈り、然權妻を置き外妾を蓄ふの陋風を發暢したり、其弊や流れて、此事を以て、無上の名譽無限の快樂と爲すに至り、深殿の奧高閣の裡、權妻外妾を以て充たされたり、上の好む所ろ下之より甚しきものあり、遂には、苟も財產に余裕あるものは、動もすれば權妻を置き外妾を養ふに至れり。

右論ずるが如く、蓄妾の陋風をして、斯く盛大ならしめたるものは、儒教と封建制度の二つが其重なる原因を爲せしこと、疑ふべくも非るなり、去りながら、月日の進歩と共に社會の體面は一變し、前世紀までは玩囃されし、後なきを大不幸と爲すてふ儒教主義も、二十世紀の今日となりては、早や秋の團扇と非職を命ぜられ、骨董店の、紙屑屋の片隅に潛伏し、僅に其髑髏を存するのみ、彼の封建制度は戊辰の年に葬られて藩籍封土を有する諸侯なく、常職家祿を有する武士あるに非ず、去れば子なきも不幸の罪なく、相續人なきも封祿遞減の心配なし、是に至て、余輩は蓄妾の必要なきを斷言して憚からざるなり、去りながら、日本社會を見渡せば、權妻外妾は依然として生存せり、嗚呼權妻外妾の必要は既に止みたるぞ、汝何爲るものぞ、世に夢る憎くまれもの、汝自ら倒れずんば、余輩は正々堂々の陣を張り、汝を攻擊すべし、閑話休題余輩は愈進んで蓄妾の弊害を說くべし。

和歌十首

駿台　黑澤茂子

花間柳

うちなびく花の木の間の靑柳はけふりうつまぬ雪の炭がま

柳

谷川の氷ふきとく春風に枝にも波をうたす靑柳

柳邊風

けふりたつ嶺はかすみて淺間山麓になびく風の靑柳

花

枝のみと思ひしものを顧さへになれはうすらく月の夜櫻

雨中花

咲てなほふるなし見ればたらちれの雨ざへつゝく花にこそおもへ

梨よりも雨の櫻はから國にあらはたくへん貴妃のなき顏

隅田川

すた堤けしき競ふてちるな花今戶の煙りなびく柳に

ちる花の雪に筏の松竹もしはしうもるゝすたの川つら

暮春

時鳥まつには寐ぬもうかられと春のゆく夜はいかにしてまし

暮春郭公

夏またて聲もらすぬる時鳥ちりゆく花にしのびかれけん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

開書

ラージ氏を送り、同夫人を慰さむ

君、万里の海波を超えて我國に渡來し、多年困苦を嘗めて心身を疲せるもの只だ我國人を愛すれば也、然るに今ま不幸にして兇手に倒る、若し傳道の爲に死すさ云はゞ君寧ろ之を喜ぶべし、又若し教育の爲に死すさ云はゞ同じく之を喜こぶべし、然るに未だ一語をも其賊に交へず之に中口の教へをも與へずして忽焉斬殺せられたるを、君に取りて將た幾干の遺恨ぞ、余は實に君が爲に痛哭するもの也。然れども之が爲めに他の宣教師を奨勵するを少小ならず、彼等此が爲めに大に戒心し、今后一層の勇を以て邦内に傳道するに至るとあらんには、君無言にして死すとも既に莫大の傳道を爲すさ云ふべき也。余は特に其夫人に同情を表す、其人切られ身獨り殘る、痛苦そも〳〵何程ぞや、只だ願くは速かに傷を療やし神を平にし、君が滿胸の愛情を擧て其の校内二百の女生に與へ、今后ます〳〵女學の爲に力を盡し玉わんとを、之れ君に取りて切てもの慰さめならん。

東洋英和女學校の女生諸君に告ぐ

君等が嚴師は切られ、君等が慈師は傷つきたり、想ふに目下校内沸々騒擾して、心洶々たるもの盖し少くあるまじ、之が爲め中には女々しきの憎を出し只だ氣味惡ろしさ稱して校を退くものも亦或は之れ有らん歟、如此きは尋常卑弱なるの女性に於て間ま見る所ろの變心なりさす。然れども諸君にして實に若し之れ有りさせば、諸君は曾に其の臆病未練にして賴み甲斐なきの弱點を現はすのみならず、亦實に恩を忘れ情を棄るの人たるとを示すもの也、諸君にして實に若し然るとあらば、彼の疵せるラージ氏は何物よりも大ひなる損失を爲したる也、彼の傷けるラージ夫人は何事よりも大ひなるの失望に會したる也。夫れラージ夫人を慰さめ、校内を理し、諸生悉さく糾合し、校亂れて忠女あらわるゝの美象を呈するは實に今日にあり、實に今日にあり、實に今日に在り矣。

懸賞問題の答文、高下の品等は次號に於て相定め、且つ次號より其答文を載せます。

交詢

●鷹都のテテ生　皇后陛下の御誕生日は五月廿八日お生は嘉永三年です書翰代郵便切手にても二割增ならば差支へありません。プリモウス、プレスレンの事は前號に答てあり升。

●學びの小供　當方に參つて居る心理書の中では、ヘブン、サリー、ロスミン、スペンサー、ベイン、ラッド、などの著があり升が、大畧を御承知になるあなたの主義の書は矢張ヘブンの書でしやう。

●宮城てる子　下田歌子君は三十七八、中島俊子君は三十一二さ存じます。

●山家娘　弘法がいろはの事は種々議論もあり升、つまり色は香へごの歌を作つた丈けでしやう、神代より文字ありしや否やにも色々議論あるとですが、私は有つたとさ思ひます、然し其字は所云る神字で形象の文字です、精しきとは日本古代文字考さ云ふ書に見え升。

此欄の掛り暫らく他出勝にて思ふほご精密にお答へを致しませんでしたが、次號よりは一層細かに答へます續々問を寄せ玉へさ云ふ。

時事

皇后陛下　養蠶家を見玉ふ

陛下の高德至れりと云ふべし、夫れ本邦婦女子よ適する第一の業事は、盖し蠶飼よ過るものある可らず、陛下深く之を思し召し、夙よ青山に養蠶室を設けさせ玉ひ、高貴の婦人孃君に命うせて共よ其業を試ませ玉へり、而して今や京都よ御發輿の御途次、いとせめて御忙がわしきの折柄、目下蠶糸業諮問會の爲に出京したる各國の委員よ拜謁仰せ付られたる由、かさね〴〵有がたき御事にして、感泣の涙せきあへぬ心地す。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志社新校長

小崎弘道君新校長となり、陰に前總長の任を襲ぐことあれり、小崎君の博愛篤信なる頗ぶる故新島君に同じき所ろあり、志あるものは皆な思ひたりき目下彼任に當るもの君にあらずんば誰ぞやと、而して今實に其の如くあれり、吾人は同志社の爲に之を祝し、敎育の爲に之を祝し、傳道の爲に之を祝す、實に誠意誠心を盡して之を祝するもの也。

群馬廢娼事件收局（？）

知事は縣下輿論の幾分を納れ、新町、安中、妙義町等の妓樓を本年九月限り全廢するとに布告したり、然れども彼の板鼻、玉村、市の宮、倉ヶ野、木崎、河股、坂本等に於ける妓樓は抑そも之を何如んせんとする、亦た彼の青年諸君は抑そも之を何如にせしめんとする乎、知事は他の三遊廓の魔物を驅つて悉とく他の七地に集まらしめ、七地をして一層醜を極むるの魔界たらしめんとする乎、噫夫れ苟くも然らば吾黨亦た再たび大に起たずんばある可らざる也。

時事翁の廢娼論

時事翁は齊家の事を甚はだ大切なりと云へり、此點より考ふれば是非とも廢娼論に加擔すべき筈也（二百五號福澤諭吉君の一篇參看せよ）、又翁は惡事を禁止するの初めは之を恥しむるに在りと云へると毎々なり、此點より考ふれば亦是非とも公娼を廢するとに盡力すべき筈也（百九十九號社説參觀）。然るに敢て輿論に逆らはじとするが爲か、此頃ろ只だ「廢娼論に歐米の例を引く勿れ」の一篇を掲げて、漫々漠々無明の意見を吐き、加之自家瞠着の矛盾論を語れり、中に云く、

米國には私の娼館極めて多し……歐米に蓄妾の風あり云々と云ふものあれども實際は然らず、勿論公然之を蓄ふる者はあけれども……西洋諸國の婦女は其女德を破る迄の間は日本婦人などに比較して割合に耐忍強けれども一旦之を破りたる以上は永世消滅す可らざる罪業を犯したりと心得るものゝ如し

此等の事實は社會清德上歐米が夐かに日本に優ることを證するもの也、夫れ害惡は容易に根拔しがたし、先づ之を秘密にせしめ、次に之を恥ぢしめ、社會公面の上に於て強く之を裁制するに於て、初て其罪業の蔓延を杜絶するとを得る也、時事翁は公けに犯すよりも私に犯す方が寧ろ進歩したるものなるの理を知らば、廢娼論を爲すに當つては尚ほ歐米をだも羨やむべきの筈なり、見よ歐米には士君子堂々淫を語ることあ

し、上流人白日に淫を犯すとなし、抑も我が遊廓に總理大臣を招待せんとすると幾干の懸隔ぞや。

七十五日

諺に、人の噂さも七十五日と云ふとあり、七十五日とは豈に二ヶ月半の事にあらずや、吾人日本人が次々に八釜しく言ふとを考へ見るに大抵二ヶ月半にて止むなり、日本人のエチルギー（勢力）は三月にも續かぬものと見ゆる也、左れば流行の風は東より西に移りて亦西より東に反り、轉々去來するの間大率ね三ヶ月なり。

眞の流行、假の流行

但だ夫れ實益眞理の上に基ひするものは、決して如此く輕々出沒するとなし、束髮は廢れたりと云ふものあり然れども此は流行の爲に束髮に變へたるものが亦流行の爲に束髮を止めたるのみ、元來實益の爲に之に移りたるものは依然として尙ほ其風を守るにあらずや、之を洋服の流行に比較するときは決して同日の論にあらざる也。　又た兎も一時にして廢り、蘭も一時にして廢れ、万年青も亦一時にして廢れたり、然れども勸工場は尙ほ依然として彌よ〳〵隆盛を極むるにあらずや。　廢娼の論亦た如此し、去年十月以來既に七ヶ月を經過す、而して其勢力いよ〳〵猛烈に、今后其運動ます〳〵目ざましからんとす、蓋し如此きの流行は只だ假の間の風波流行にあらずして、實に大勢の流行にてある也。

今后天下太平

然れども七十五日のエチルギーに依りて卜知し得べきものあり、即はち多くの著名志士は去年九ヶ月間殆んど騷ぎ續けたり、今年も亦半數改撰の爲に相應の騷ぎを爲したり、而して今や博覽會もにぎやかにて、櫻も咲き、色々の懇親會も隆んなれば、此分にては帝國議會に關する惣ての事は思の外靜かなるべし、其撰擧の事の靜かなるは宜しけれども、議論の餘りに手ぬるきは必しも賞むべきとに非ず。

通信

靜岡に於けるアッケルマン孃

拜啓陳者兼て御報道有之候「ミスアッケルマン」氏當市に來遊せられたる顚末を左に御報申上候。

三月廿二日東京津田仙君より仝氏が三島を經て當市に來遊せらるゝの御報有之候間此際禁酒大演述會を開かんとし當メソジスト婦人會員九十名種々に協議し周旋員等を撰み青年會員西野氏を以て三島に之を迎へ廿六日正午沼津米山牧師と共に當市に來らる教會員一同停車場に出迎へ「カッシテー」氏の宅を旅館に乞ひ井上レツチ氏に通辨を委す當夜水曜にして祈禱會の日なるを以て「アッケルマン」氏も之に臨席せられ懇切に來意を述へられ萬里の波濤外一語を解せさる地に於て同調の讃美歌を聞き同父の許にある多數の人を得たるを喜ひ併て禁酒會に付翌日開んさする演述會に助あらんとを祈らんとの趣旨を述られ同夜一同熱心に祈禱す翌二十七日午后七時當市研屋町芝居小屋千鳥座（これ會堂狹くして多人數を入べき席なきによる）に於て公會演說を開く辨士は小林牧師「ミスアッケルマン」氏通辨に井

上レッ子氏なり當日は同氏が來る時日の確定せしより僅か二日の餘暇ありたるのみなれは充分なる準備も不能爲にも拘はらす來會人の多き意外に出て場所の狹隘なりしを怨み候午后六時半頃は已に傍聽人場内に充滿し木戸口をメめ切る勢なりし花道舞臺の傍「太夫座」迄人の山をなし會するもの一千七百人（之れ一々數へ能はざりしも當座の所持人の言により候只今芝居にも此の如く人の集りたるこさ稀なりさ申候間其儘を記し候）遲れて到りたるものは皆戸外に蝟集せり婦人會員周旋に盡力し青年會員は暴行の人ありたるさきにさ夫々氣配り致せしかさも演述中一人の彼是するものなく初めには「ノー」「ヒヤ」の聲一二語耳に入り候へ共終りには駱町の人も顏色を變し候さて演題主意は禁酒さ節酒（小林牧師）禁酒論（アッケルマン氏）にして道德上より事實上より衞生上より經濟上より懇切酒害を說明されたるを以て日頃の頑固連も避易せしならん即座禁酒を申込たるものは十八名已に今日は百十三名に達したり翌二十九日は禁酒會に入らんさする婦人のみ「アッケルマン」氏さ教會に集りて其組織を講究し役員を撰拔し會頭には井上れつ子副會頭小林ことよ書記は不耆之に當り矯風婦人禁酒會の基礎を得し尙右禁酒の規約を長く履行し得るとの爲に卅日の日曜には信者一同各別ちて戸別に禁酒員を訪問し教理を說きて其心を堅固にせんさ企て候只今迄當地婦人の働は微々さして只一身の計畫に汲々たるのみなりしも今回アッケルマン氏の來遊により人心を腐敗せしむる害物を除くの企を得たれは當婦人會員の喜悅不斜」只今迄「メソテスト」婦人會にては每月一回會合を催し僅少の金圓を貯蓄して教會新築貧民救興等の費用に當てんさ致し居候處今回「アッケルマン」氏の來遊に會し斯る有益に消從し得たるを一同喜び居候尙今后此演述が一陣の風さ吹き去らぬ樣熱心に永續の方法を講し度何卒御教示を賜はらんとを希望仕候以上當日の情況御報道迄不足不悉の處は御推察願入候恐惶　（靜岡婦人禁酒會書記　加藤米）

廢娼記事

●厚生館演說　去五日木挽町厚生館に於て廢娼壯年議會の發起に係る、黑岩周六土岐善靜、内川定吾、市川爲四郎の諸氏演說あり、大江卓氏は病により出席あらざりき。

●長谷川泰氏　去八日再び廢娼論者に質すの題を以て厚生館に演說せられんさする旨新聞紙の廣告に見えしが、到り之を聽けば俄かに都合ありさて之を止め只だ醫藥分業の事を述べられたり、聽衆の多くは主も廢娼論の爲に來聽せしさ見え非常に罵詈し、中には長谷川の腰ぬけ」など失敬の事をも呼びて五六分の人は悉く退場したり之によりても輿論の尙ほ熱心に此問題に注目するとを見るべし。

●群馬縣布告　前號に於て假りに報じ置たるが、群馬縣知事は去卅一日下の如く布告したり。

明治二十一年五月群馬縣令第三十二號を以て貸座敷營業及娼妓稼廢止の義は當分の內延期す可き旨布令置候處詮議の次第有之左の場所は本年九月限り廢止す

但貸座敷營業者の內他の業に就くと能はさる事情あるものにして貸座數所在地に轉居繼續營業を爲んさする者に限り特に免許する事あるべし。

一緑野郡新町　一碓氷郡安中町　一北甘樂部妙儀町

右に付前橋社友の來信に云く、此布告に對し青年聯合會員は皆な大不平なり早速事情可申上筈なれども目下一部長其他の意見問合中、不幸にも主任警部長疾病の始め吾黨の運動方針確定せず、其内に精報すべし。縣會議員も同じく不平也。

●東京廢娼會　の事及び近日開くべき廢娼同盟會年會等の事に付目下發起人及有志者は盡力中なり、近日定めし發表あるべし。

●時事新報　初めて廢娼論めきたるものを去八日の紙上に揭げたり、贊成か不同意かを明言せず但だ歐米に例を引かず日本を世界第一の淸潔國さ爲さん爲に廢娼運動に盡力すべしさ論じたり。

●廢娼さ云へる雜誌　の第一號明石町十二番地より發行せり一册五錢也。

●公娼可滅　さ云へる小册子目下印刷中此は婦人矯風會風俗部の發起にて去る頃厚生館に演說會を開きたるが、其節島田君及巖本の演說したるものを筆記し、入場券料の殘金にて出版費を辨じ廣く國中に配布するものゝ由也。

○女報

●女子高等師範學校　の歲出豫算は二万八千二百二十二圓にして別に今年は臨時費七百圓を給する見込の由。

●跡見女學校卒業式　を去六日に開かる、跡見桃子、片岡君子、松野織千代子、田邊あさ子、三橋久子、万里小路富子、木槻のぶ子、秋元さわ子、跡見せつ子、山口きみ子、田村ます子、中村あや子、新野はつ子、の十三氏卒業す、田邊あさ子は英語にて祝辭を述べ、サンマー氏も英語にて述べ、教員菊地熊太郎氏は極めて自由なる女子教育說を述らる、跡見女學校二三年間の改進驚ろくべきものありさ云ふべし、世上に於て同校を目し一概に守舊の教育を施すものさ思ふは大に誤まるもの也、尙ほ生徒諸子が禮節に熟し、肅然重謹にして絕へてビク〳〵させざるは平素女禮練習の程左こそさ思はる、此一點に於ては蓋し目下何れの女學校にも優ると信ぜらるゝ也。

●汲泉會　跡見女學校卒業生及び校友の倶樂部とも云ふべき同會は來る十一日芝紅葉館に於て發會を開かるべし。

●東京唱歌專門學校　は此度東京音樂學校教頭眞行氏を聘して本校監督とし一層規模を擴張せり因に記す校教師は皆音樂學校の卒業生にして男子部は山本朱、倉知甲子太郎　女子部は宮崎玉子、宇野肇子の擔任なりさ。

●國語講習會　は去る六日淺草小島町の校舍に於て開會式を行はれたる由なるが生徒を男女の二部に分ち每週土、日の兩日を以て平田盛胤、黑川眞道、黑川眞賴、辰巳二小郎、鈴木弘恭等の諸氏を聘して國學を教授せらるゝさ云ふ。

○週報

○官令　三日法律第三十號にて證券印稅追加の件同三十一號にて諸鐵工免許規則勅令第六十八號にて整理公債條例に依り募集又は償還する公債金政府紙幣交換基金銷店銀行紙幣交換基金特別會計の件同六十九號にて官有森林原野及產物特別處務規則を裁可公布せらる同日勅令第七十號にて海軍服制中改正の件を公布せらる四日明治二十三年度歲入歲出總豫算中削除の件及び追加の件、明治二十三年度文部省所管農商務省所管諸學校の特別會計の各歲入歲出豫算等を裁可公布せらる

○宮庭　三日天皇陛下尾張名古屋に於て觀兵式を行せらる同日神武天皇御例祭の節は九條掌典長犬皇陛下の御代拜を奉仕したり●五日天皇々后兩陛下名古屋御發車京都に着御あらせらる

○政治　三日愛國公黨の諸氏は飯田町の富士見樓に演說會を開けり

○業報　華族會館長三條實美公は滿期に改撰せしに同公爵が再撰せられたり

廣告

本校の學期は豫科三箇年本科四箇年にして別に二箇年に涉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす每科受持の敎員孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完全なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

明治女學校 新入生徒募集

定期試驗を終へ例の如く最下級及各級へ新入を許す○特に此期より師範科を新置し三年授業の上、小學校敎師たるとを得しむ。右入學は本校豫科卒業に相當する學力を要し、本校最下級より初むる者は其儘入學するとを得合せて五年にして卒業す○尙、英學、國文、女禮裁縫、速記、書學、音樂の六專修科を增置し、專門修學者の便に供え、普通科に於ては今後特に家政の時間を增す●右諸科に對し入校望みの者は本月十八九兩日の間に來校あるべし●新規則入用の方は郵券二錢封入の上申込あれ。

東京飯田町三丁目卅二番地　（私立）　明治女學校

生徒募集廣告

一本校今般高等科普通科男子生女子生共募集候條志願者四月廿五日限願書差出可シ
一入學試驗○高等科唱歌集二編理論樂譜論大意○普通科後期唱歌集初編○初學者聽音發音ヲ試驗ス

本鄕區追分町卅一番地　私立　東京唱歌專門學校

交詢案內

（催促する勿れ郵券十錢送れ委細に申來れ）

●雇ひたき方（甲）

二一	中働	年齡廿五才にして一ト通り裁縫の出來るものを一圓以上の給金にて雇ひ度處あり
二五	召使	十二才以上の小女にて實直なるものを給料一圓にて雇入度處あり
二七	小女	年齡十二三才にして少しづゝ勉強の出來る御宅に無給にて小間使に雇ひ度ものあり

●雇はれたき方（乙）

二四	奉公	年齡廿二才にして一と通り裁縫もいたし氣輕の生れつきにて華族様か中以上の官員方へ中働きに奉公いたし度し給金は壹圓以上に願ひたし
二五	裁縫	裁縫は重もに婦人洋服にて和服にも巧なり學校若しくは華族其他高貴の御內に敎師に雇れたし
二八	奉公	普通小學科卒業の者にて（年齡二十二才）產婆業を營まるゝ基督信徒の家に無給にて雇はれ餘暇に產婆術を學び度ものあり
二九	奉公	年齡十四歲にて基督敎信徒の家（可成は西洋人）に雇はれ度ものあり尤も普通食料小使仕着等一切持參致すに付き每日四五時間英語學の脩業致したし
三五	奉公	年齡十五才の高等小學卒業生にして餘暇に勉學の出來候御宅へ雇はれ度ものあり但し給料は望みなし
三六	敎師	數寄屋橋內東京唱歌會卒業生にして何れの學校にても唱歌の敎師に雇はれたし但し年齡廿才にして給料は何程にても宜し
三七	奉公	每日三四時間勉强の出來る女學校又は中以上の官員の御宅へ無給にて雇はれたきものあり
三八	召使	身元慥かなる十三才の小女にして堅き御內へ小間使に雇はれたし但し餘暇に算筆を敎授せらるれば給金に望なし

小中村淸矩先生著
再版 歌舞音樂略史　全三冊　價金七拾錢
右本社に於て取次賣捌候間御注文の程奉願上候
女學雜誌社書籍部

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人著述○小中村清矩大人評
●文法口授 全一冊 價金十六錢

世良太一呉文聰兩君序○横山雅男君著
●婚姻論 全一冊 價金二十五錢

田口卯吉君結髪沿革附錄○岩本善治君跋
和崎義路君校○渡邊鼎著
●束髪案内 全一冊 價金十錢

船越鼎太郎君著
●産婦小兒攝生法 全一冊 價金十八錢

鈴木弘恭大人講述○山村亮作君筆記
●徒然草講義 全一冊 價金十錢

嚴本善治編
●木村鐙子小傳 全一冊 價金十錢

中島俊子女史著
●善惡の岐 全一冊 價金三十五錢

關輪正路君纂著○木村熊二田口卯吉兩君序
●女子必携今世姫鑑 全一冊 價金五十錢

女學雜誌社編輯
●材料新誌 八冊 價金六十四錢

佐々城豊壽女史譯
●婦人言論の自由 全一冊 價金十錢

麹町區富士見町二丁目一番地
女學雜誌社

社告

鈴木弘恭先生講述
百人一首講義 二百頁中本美裝 郵送料四錢 上等製本五十錢 普通製本三十錢

右小倉百人一首を鄭寧に面白く極く分るやうに解き明かし特に初學にても自づから歌の詠めるやうに致ゆる詠歌手引を添え三月初旬より發賣仕候間御注文奉上候

通信女學第二卷再版

第一卷悉皆出切候處ろ注文尚ほ續々有之に付至急再版に着手す、但し再版部數は自から限あることに付御入用の御方は可成早く御申込被下度候、然らざれば部數不足を生じ又々御需めに應じがたき儀有之候かと掛念致候。

定價

一冊。	六錢	郵稅。五厘	(但府内無郵稅)
十冊。	五十八錢	郵稅。五厘	(同前)
半年分	一圓四十三錢	府外は	一圓五十六錢
一年分	二圓六十錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行 (廿七字詰)	一回	前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳な事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受くべし
女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評す

發行所 東京麹町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麹町區富士見町二丁目一番地寄留 嚴本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌社出版書目

鈴木弘恭大人著述〇小中村淸矩大人評 ●文法口授	全一冊	價金十六錢
世良太一吳文聰兩君序〇横山雅男君著 ●婚姻論	全一冊	價金二十五錢
田口卯吉君結髮沿革附錄〇岩本善治君跋 和崎義路君校〇渡邊鼎著 ●束髮案内	全一冊	價金十錢
船越鼎太郎君著 ●產婦小兒攝生法	全一冊	價金十八錢
鈴木弘恭大人講述〇山村亮作君筆記 ●徒然草講義	全一冊	價金十錢
嚴本善治編 ●木村鐙子小傳	全一冊	價金十錢
中島俊子女史著 ●善惡の岐	全一冊	價金三十五錢
關輪正路君纂著〇木村熊二田口卯吉兩君序 ●女子必携今世姬鑑	全一冊	價金五十錢
女學雜誌社編輯 ●材料新誌	八冊	價金六十四錢
佐々城豐壽女史譯 ●婦人言論の自由	全一冊	價金十錢

麴町區富士見町二丁目一番地
女學雜誌社

社告

鈴木弘恭先生講述
百人一首講義 二百頁中本美裝 郵送料四錢 上等製本五十錢 普通製本三十錢

右小倉百人一首を鄭寧に面白く極く分るやうに解き明かし特に初學にても自づから歌の詠めるやうに教ゆる詠歌手引を添え三月初旬より發賣仕候間御注文奉上候

通信女學第二卷**再版**

第一卷悉皆出切候處ろ注文尚ほ續々有之に付至急再版に着手す、但し再版部數は自から限あることに付御入用の御方は可成早く御申込被下度候、然らざれば部數不足を生じ又々御需めに應じがたき儀有之候かと掛念致候。

定價

一冊。六錢 郵税。五厘 (但府內無郵税)
十冊。五十八錢 郵税。五厘 (同前)
半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓五十六錢
一年分 二圓六十錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

一行 (廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道徳なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く
女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

發行所 東京麴町區富士見町二丁目一番地 女學雜誌社
編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 嚴本善治
印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY